

引用文献・参考文献の書き方

- ・参考文献または引用文献の目録を本文末尾にリストする。
- ・見出しは「引用文献」または「参考文献」のいずれかとする。
(「引用文献」のリストに明記できるのは出典を文献中に示したもののみ。)
- ・原則として、和文の場合は五十音順、英語の場合はアルファベット順とする。
- ・日本語を先に、英語を後にリストをする。
- ・二行目からはインデントする(ぶら下げ)。
- ・和文のフォントは漢字・かなをMS明朝、英数字をCenturyとする。

J-CLIL NewsletterのスタイルはAPA(アメリカ心理学会)の出版マニュアルに準じています。以下、引用文献のサンプルを示しますが、さらに詳しく知りたい方は以下のAPAのサイト<https://apastyle.apa.org/>のAPASTYLE AND GRAMMAR GUIDELINESのReferencesセクションをご覧ください。

和文

1. 和文・単行本

(1) 単著者

著者氏名(出版年)『書名』出版社.

【確認事項:最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 笹島茂(2020)『教育としてのCLIL』三修社.

(2) 共著者

著者氏名・著者氏名(出版年)『書名』出版社.

【確認事項:複数著者の場合氏名は中黒でつなぐ。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 渡辺良典・池田真・和泉伸一(2011)『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たな挑戦 第1巻 原理と方法』上智大学出版.

(3) 単編著者

編著者氏名編著(出版年)『書名』出版社.

【確認事項:氏名の後に編著を入れる。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 笹島茂編著(2011)『CLIL 新しい発想の授業—理科や歴史を外国語で教える!?!』三修社.

(4) 複数編著者

編著者氏名・編著者氏名編著(出版年)『書名』出版社.

【確認事項:複数編著の場合氏名は中黒でつなぐ。最後の氏名の後に編著を入れる。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 池田真・渡辺良典・和泉伸一編著(2016)『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版.

(5) 和文・単行本掲載の論文/章

著者氏名(出版年)「題名」編著者氏名編『書名』(pp.ページ)出版社.

【確認事項:複数の氏名の場合は中黒でつなぐ。最後の編著者の氏名の後に編著を入れる。最後に半角ピリオドが入る。ページ数はpp.とし、始めのページと終わりのページを入れる。最後に半角ピリオドが入る】

(例) 池田真(2012)「第一章 CLILの原理と指導法」和泉真一・池田真・渡辺良典編著
『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たな挑戦 第2巻 実践と応用』
(pp.1-15)上智大学出版.

2. 和文・雑誌掲載論文

著者氏名(出版年)「論文名/記事名」『雑誌名』巻(号), ページ.

【確認事項:雑誌記事名は「」、雑誌名は『』巻の後の号は()で示す。ページは数字のみ。】

(例) 柏木加津子(2015)「イタリアの小学校におけるCLIL実践に学ぶ」『英語教育』63(11), 54-56.

著者氏名(出版年)「論文名/記事名」雑誌名, 巻, ページ. URL

【確認事項:雑誌名が欧文の場合は巻を含め斜体とする。電子版の場合はURLを入れる。】

(例) 柏木加津子(2019)「オーストリアのScience in CLIL—ディスコース分析からみる思考

の深さ」J-CLIL Newsletter, 4, 4-8.

https://www.jclil.com/_files/ugd/d705d2_1ac072b276c543a185d65203d2832191.pdf

3. 和文ウェブサイト

著者氏名/管理運営組織名(記事執筆年/データ公開年)「ページ名」『サイト名』年月アクセスURL

【確認事項: ページ名は「」、サイト名は『』に入れる。】

(例) 外務省(2022)「外交政策」『外務省ホームページ』2022年9月1日アクセス

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/report.html>

4. 和文新聞記事

(紙面)

記事名(発行年月日)『紙名』pp. ページURL(オンラインの場合のみ)

【確認事項: 記者名がない場合は記事名から始める。ページの前にp./pp.を入れる。オンラインの場合はURLを入れる。】

(例) 英語指導などで外国青年750人招く 地方自治体、87年夏に(1986年10月9日)『朝日新聞』p.1.

記者名/執筆者名(発行年月日)「記事名」『紙名』URL(オンラインの場合)

(例) 鳥飼玖美子(2018年9月17日)「複数の英語試験を入試活用『欧州基準』で換算、不適切」『日本経済新聞』

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35384080U8A910C1CK8000>

欧文

1. 欧文・単行本

(1) 単著者

著者ラストネーム, 著者ファーストネーム.(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項: 書名は斜体。出版地は記載しない。】

Dalton-Puffer, C. (2007). *Discourse in Content and language integrated learning (CLIL) Classrooms*. John Benjamins Publishing Company.

(2) 共著者

(2名)

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネーム., & 第2著者ラストネーム, 第2著者ファーストネーム.(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項: 第1著者と第2著者は、(カンマ)&でつなげる。出版地は記載しない。】

Coyle, D., & Meyer, O. (2021). *Beyond CLIL*. Cambridge University Press.

(3名)

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネームのイニシャル., 第2著者ラストネーム, 第2著者ファーストネームのイニシャル., & 第3著者ラストネーム, 第3著者ファーストネームのイニシャル.(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項: 第1著者と第2著者はカンマで、第3著者(3名以上の場合は最後の著者)は、(カンマ)&でつなげる。出版地は記載しない。】

Ball, P., Kelly, K., & Clegg, J. (2015). *Putting CLIL into practice*. Oxford University Press.

(3) 単編著者

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネームのイニシャル. (Ed 出版年). 書名. 出版社.

【確認事項: 第1著者のファーストネームの後に(Ed.)を入れる。書名はイタリックにする。】

(例) Williams, C. (Ed.) (2015). *Innovation in Methodology and Practice in Language Learning: Experiences and Proposals for University Language Centres*. Cambridge Scholars Publishing.

(4) 複数編著者

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネームのイニシャル., & 第2著者ラストネーム, 第2著者ファーストネームのイニシャル.(Eds.)(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項: 複数編著者の場合は最後の編著者の前に&を入れる、最後の編著者の名前の後に(Eds.)を入れる。】

(例) Anderson, L., & Krathwohl, D. (Eds.) (2001). *A taxonomy for learning, teaching, and*

assessing: A revision of Bloom's taxonomy of educational objectives. Longman.

(5) 欧文・単行本掲載の論文/章

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 論文名. In 編者名(Ed.) 書名. (pp. ページ). 出版社.

【確認事項: 著者はラストネーム。ファーストネームの順となるが、Inの後に編者を書く場合はIn ファーストネームのイニシャル。ラストネーム(Ed.)となる。編者が複数の場合は、編者名を、&でつなげ(Eds.)とする。またページ数は(pp.~)で表す。論文名は**正体**、書名は**斜体**となる。】

(例) Coyle, D. (2002). Relevance of CLIL to the European Commission language learning objectives. In D. Marsh (Ed.) *CLIL/EMILE The European dimension: action, trends and foresight potential*. (pp.27-28). European Commission.

2. 欧文・雑誌掲載論

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 論文名, 雑誌名. 巻(号)ページ.

【確認事項: 論文名は**正体**、雑誌名・巻は**斜体**、号は**正体**で()に入れる。ページは**数字のみでpp.**は入れない。雑誌名はイニシャルを**大文字**にする。DOIがある場合は、[https://doi.org/\(DOIコード\)](https://doi.org/(DOIコード))を記載する。ウェブの場合はURLを載せる】

(例) Li, W. (2018). Translanguaging as a practical theory of language. *Applied Linguistics*, (1), 9-30. <https://doi.org/10.1093/applin/amx039>

3. 欧文ウェブサイト

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル.(またはサイトの管理運営組織名). (記事執筆年/データの公開年). ページ名. サイト名. Retrieved on Month Date, Year, from URL.

【確認事項: 公開年が不明の場合は**(n.d.)** ページ名は**正体**、サイト名は**斜体**。取得年月日とURLを入れる。】

(例) Council of Europe (ECML/CELV). (n.d.). Pluriliteracies FAQ. *A pluriliteracies approach to teaching for learning*, Retrieved on September 20, 2022, from <https://pluriliteracies.ecml.at/Principles/ConceptualizingLearningProgression/tabid/4273/language/en-GB/Default.aspx>

4. 英字新聞記事

記者名.(発行年月日). 記事名.紙名.Retrieved on Month Date, Year, from URL

【確認事項: 記事名は**正体**、紙名は**斜体**。取得年月日とURLを入れる。】

(例) Morgan, E. (2022, September 4). Britain's multilingual children: 'We speak whatever language gets the job done'. *The Guardian*. Retrieved on September 20, 2022, from <https://www.theguardian.com/science/2022/sep/04/britains-multilingual-children-we-speak-whatever-language-gets-the-job-done->